



つよい子

令和7年度 学校だより

第2号

余市町立大川小学校

令和7年4月25日

- 【令和7年度 重点目標】
- ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
 - ◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

どのように学び どう使うか

校長 大山 敏広

北海道にも桜の便りが届く季節となりましたが、この4月は、まだまだ朝の冷え込みが厳しかったように感じます。登校途中の子どもたちに声をかけると「大丈夫です。寒くありません!」と元気な言葉が返ってくる事が多く、たくましく学校へ通う様子が見られた一カ月でした。また、1年生の子どもたちは、小学生としての学習や生活に係る指導、そして給食指導などを受けながら、学校生活のリズムを少しずつ身につけてきています。4月17日には、全国の小学校6年生・中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の6年生も真剣に問題に向かい、粘り強く挑戦する姿が見られました。感心しました。

張り切って新年度のスタートを切った子どもたちですが、そろそろ疲れが見え始め、このような質問も出てくる頃かもしれません。

「なぜ、学校に行ったら勉強しなければいけないの?」

…大人は、答えを考えます。

「大人になったら、困らないようにだよ」

「自分の可能性を広げるためだよ」

「将来の選択肢を増やすためだよ」 等々

答え方はさまざまですが、どんな答えであっても共通していることがあります。それは、「今の学び（学び方）は、今後の生き方（生きる力）につながる」ということです。



「読み・書き・そろばん（計算）は、しっかりと」…昔から基本的な学習内容を習得することの重要性は語り継がれています。しかしながら、学年が上がり学習内容の難易度が高くなると「この勉強、大人になったら使うの?」と素朴な疑問を

抱きます。これはごくごく自然のことで、私たち大人が経験してきた過程のひとつでもあります。

ひとつの知識をひとつの引き出しに例えてみましょう。知識としての引き出しは、それぞれ独立したものです。その知識を使って課題（困難）を乗り越えるためには、いくつかの引き出しを組み合わせなければいけないことがあります。また、引き出しは時間の経過と共に錆び付いてしまい、すぐには開けられなくなってしまうこともあります。時々油を差し、レールの滑りをよくすることが必要かもしれません。

■どのように引き出しの数を増やすか。

■どの場面で、どの引き出しを開け、どのように使うか。

■引き出しをどのように組み合わせれば、目の前の課題をクリアできるか。



学校教育では、教科の知識や技能を獲得することと合わせて、他者との関わりの中で【**学び方を学ぶ。考え方を学ぶ。考え方の経験を積む。**】このようなことも大切にします。できた喜びや一生懸命取り組むことの美しさを経験させ、人生を豊かにすることのできる「生きる力」を育むことにつながっていきたいと考えています。

5月末には、スポーツフェスティバルが予定されています。慌てず、じっくりと「一生懸命取り組むことの心地よさ」を経験させていきたいと考えております。

引き続き、保護者の皆さま・地域の皆さまの御理解と御支援をいただきながら、子どもたちの成長を支えていきたくと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。